平成 30 年度第 2 回石狩海浜植物保護センター運営委員会議事録

◇日 時：平成 31 年 1 月 23 日（水） 10 時 00 分～12 時 00 分

◇会 場：石狩市役所 5 階第 2 委員会室

◇出席者：

<運営委員>

松島 肇（会長）

安田秀子（副会長）

伊井義人

石山優子

渋谷真澄

田畑 博

山田春雄

<事務局> 環境市民部 環境保全課 兼 石狩海浜植物保護センター

宮原和智（センター長）

木本明美（主査）

荒山千恵（主任）

高橋恵美（技師）

◇欠席者：

<運営委員>

溝淵清彦

内藤華子

◇傍聴者：3 名

◇次 第

1. 開会

2. 議題

（1）平成 30 年度石狩海浜植物保護センター活動報告について

（2）平成 31 年度石狩海浜植物保護センター活動計画について

（3）その他

◇議 事

1. 開会

【事務局】

本日の議題は、議事次第のとおり、「(1) 平成 30 年度石狩浜海浜植物保護センター活動報告について」、「(2) 平成 31 年度石狩浜海浜植物保護センター事業計画について」「(3) その他」となっております。この後の議事進行は松島会長にお願い致しますが、本日は、溝淵委員、内藤委員におかれましては所用により欠席のご連絡がありましたことをご報告させていただきます。議題の進行については、松島会長にお願い致します。

(委員会資料の確認)

1. 次第	1 枚	
2. 出席者名簿	1 枚	
3. 配席図	1 枚	
4. 平成 30 年度石狩浜海浜植物保護センター事業報告(仮)	《資料 1-1》	1 部
5. 平成 30 年度石狩浜ハマナス再生プロジェクト報告書(仮)	《資料 1-2》	1 部
6. 平成 30 年度ふるさと海辺フォーラム報告書	《資料 1-3》	1 部
7. 平成 31 年度石狩浜海浜植物保護センター事業計画(案)	《資料 2》	1 部
8. 平成 29 年度石狩浜海浜植物保護センター活動報告	《資料 3》	1 部

2. 議題

【松島】

平成 30 年度第 2 回石狩浜海浜植物保護センター運営委員会を開催します。
次第に沿って進めていきます。

議題(1) 平成 30 年度石狩浜海浜植物保護センター事業報告について

【松島】

受託者である NPO 法人いしかり海辺ファンクラブ(以下、海辺ファンクラブ)の理事長である石山委員から説明をお願いします。

【石山】

— 《資料 1-1》「平成 30 年度石狩浜海浜植物保護センター活動報告」(説明) —

【松島】

質問・意見等がありましたらお願い致します。前回(第 1 回)の運営委員会で事業項目が多いので整理されたらどうかというご意見があったが、1 年を振り返りどうであったか。

【石山】

前回は話をいただいた7月時点では事業年度が始まっていたので、そこからの事業整理は難しかった。今回に関しても委託先である環境保全課と話をし、《資料1-1》の報告形式は前回に引き続いた形にしている。この後、議題(2)で説明する平成31年度については事業の整理をしているので委員のご意見をお願いしたい。

【山田】

今年も盛りだくさんの報告ですごいなと思いき事前に学習させていただいた。地域に根ざした子どもたちも含めた活動で、センターという建物に来る人や来ない人も含め、保護センターに来る人には説明していると思うし、来ない地域の学校や施設にも出向いたりして活動している。地域活動の積極的な啓発、ボランティアとのハマナス再生などにも取組まれている。大変すばらしいと全体的に思う。

《資料1-1》の11-12頁に掲載されている来館者数について、こだわるわけではないが、平成29年度に比べて平成30年度は減っている。何か思い当たることはあるか。

【石山】

確実にこれだということとは言えないが、一つには本町地区全体の観光客数の減少がある。今年度に関して、商工労働観光課で取りまとめた数値だが、あそび一ち来場者数は9万人。前年度は15万人以上が来ていた。はまなすの丘ヴィジターセンターに関しても今年度は3万人で全体的に減少している。また、連休中、夏休み中、お盆の時期も厚田の道の駅に客足が取られ、本町地区へ足が延びなかった。土日の天候不順の影響も大きかったと思われる。臨時休館があったのも影響している。

【山田】

来館者数が減ったということにこだわるわけではない。ハマナスのボランティアは増えている。大変ご苦労されているのかなとも思った。

【田畑】

《資料1-1》の8頁、はまなすの丘公園景観保全作業について。昨年に2回実施されたうち、私も10月に参加させていただいた。外来種の特にかモガヤを中心に駆除した。他の外来種もあり、根が密であったり、背が伸びていたり、海浜植物への影響も大きいと思う。現状としては駆除してかなり効果があるのか。外来種は拡大しているのか、現状はどうか。

【石山】

景観保全作業に関しては、海辺ファンクラブの受託外になるため、事務局から説明を願う。

【宮原】

景観保全作業は市が主催で毎年2回、春と秋に実施している。はまなすの丘公園としての景観保全が目的で、ハマナスをはじめとする海浜植物や灯台もある。ススキ、カモガヤ、アキグミなどが繁茂してきており、灯台の景観も悪くなるということで、10年程前から実施させていただいている。外来種等の繁殖の状況は定量的に取っているも

のではない。ススキなどの内陸性の植物は、ボランティアの皆様にご協力いただいて、根から除去することによって、平衡状態を保っているように思われる。カモガヤなど外来種の牧草的なものは急激に増えている印象はない。ボランティア活動のたまものと感じている。内陸性植物の増加については、松島先生いかがでしょうか。

【松島】

仕方がないところもあると思うが、除去作業によってススキは減った印象を受ける。田畑委員のご指摘は、活動した効果を定量的に把握しておく必要があるのではないかというご提案と思う。次年度以降、やる前とやった後でどれだけ変わったか、昨年やったところは減った状況なのか増えているのか把握する必要があるのかと思った。

私も調査をしていないのであくまで印象であるが、ススキに関しては大分減り、アキグミに関しては木本なので抜けば減ってきている印象を受ける。カモガヤは、ススキと同様に成長が早く根絶はかなり困難であり、抜くことで数は減っているとみられるが、抜いても小さな苗が残っているので次の年にはそれなりに出ているのかと思う。ご提案いただいたとおり、定量化して効果を検証していく仕組みにしていかなければならないかと思う。

【安田】

海辺ファンクラブが委託を受けて実施するようになり、やることが多いという印象はもっている。定期観察の会の会員なので、センターでの活動の様子を目にする。再生園の整備も大変そうで館内の展示等もあり全体をこなしているが、マンパワー的に1年間進めてみてどうなのか。

【石山】

受託したから作業量が増えたということではないが、受託を受けた部分で人件費に関してはわりと自由にできるようになり、必要なところに配分できる。人手が足りているわけではないが、人員とできることを精一杯やっている感じである。

【安田】

やはり、そうですね。《資料 1-1》1頁のハマナス再生プロジェクトをみると、作業日数 111 日、150 人工、770 時間とあり、開館している日はほとんど外に出て必ず何かをこなしている実数なので大変だろうと思った。館内・再生園のほうで、海辺ファンクラブの人員的には何人が入る形になっていたか。

【石山】

市との契約で仕様書上は最低 2 人といわれている。週 3 回くらいは 3 人で配置し、短時間の方を入れて 5 人のときもある。観察園と再生園の担当者がいるので、雑草取りや移植の日が決まっていると、人員を優先的に配置するかたちで調整して実施している。

【松島】

震災の影響は建物にあったか。

【石山】

正面駐車場の小さな花壇のコンクリートブロックが傾いていたが、震災から日数が

経って気がついたため地震が直接的なのか老朽化か追究できなかったので、土木工事を直した。

【山田】

人員配置が大変と思うが、《資料 1-1》6 頁、学校・団体向け学習支援について、これは保護センターに来ての学びか。

【石山】

《資料 1-1》6 頁下に示している一覧「団体向け石狩浜学習支援」についてはすべて保護センターを使用しての支援になる。6 頁上に示している一覧「学校向け石狩浜学習支援」に関しては、一部保護センターを利用していないものもある。6 頁上の学校向けについては、海辺ファンクラブの普及員ではない方をお願いして担当していただいている。足りないときは普及員も手伝っている。

【山田】

《資料 1-1》6 頁下の一覧で来てくれた団体は事前申し込みがあるのか。断わったりすることもあるのか。

【石山】

断ったりはしない。事前申込は半分くらいで、当日来られる方も少なくはない。中に 1 名は対応できるよう配置している。

【山田】

突然来られたときに人の配置は大丈夫か。

【石山】

2 人はいるので、観察園・再生園に出いても優先的に対応している。

【山田】

40 人が一度に来ているときは。

【石山】

大人数のときは事前に申し込みがあったので、当日ボランティアをお願いしたり、その時間だけ普及員を増やしたりして対応している。

【山田】

対応しているボランティアは、海辺ファンクラブの方か。

【石山】

海辺ファンクラブの場合もあるが、保護センターを支援してくださるボランティアで自然案内人の方もいらっしゃるの、いろいろな方にご協力をいただいている。

【山田】

今年、私自身はあまりセンターに行けなかったの、もう少し考えなくてはと思った。

【安田】

《資料 1-1》5 頁の⑦について、広報に原則載せることが基本だが、「まつぼっくりで灯台を作ろう」は広報に載らなかったのかなという記憶があった。手伝いに入って、キッズの子どもたちが来ていたと思う。広報は 2 ヶ月前にやらないとならないので、手

が回らなかったのか。忙しいと思うが、広報は載せるようにしたほうがよいのではと思っていました。

【松島】

参加者はどれくらいであったか。

【石山】

「まつぼっくりで灯台を作ろう」は15人程度。このイベントに関しては主催であったが、商工労働観光課の本町地区の灯台イベントとの一環として実施した関係で、商工労働観光課のほうでポスターを作るとのことで、広報には載せていなかった経緯があった。広報をしっかり掲載したほうがよいというご意見はそのようにしていきたいと思う。また、同頁の⑤「海辺の植物ウォッチング」も毎回広報に出していたが、1回掲載忘れがあったので今後は気をつけたい。

【松島】

広報担当者は決まっているか。

【石山】

決まっていない。プログラムごとに担当が決まっているので、次年度以降は注意したい。

議題（2） 平成31年度石狩浜海浜植物保護センター事業計画について

【松島】

引き続き、海辺ファンクラブを代表して、石山委員から説明をお願い致します。

【石山】

その前に、平成30年度の調査事業として、イソスミレとハマボウフウの育成調査を実施した。その報告書を1部持ってきているので、終わりましたら回覧ください。

【石山】

—《資料2》平成31年度石狩浜海浜植物保護センター事業計画（案）（説明）—

今年度（平成30年度）の事業数を10以上に区分していたが、次年度（平成31年度）は大きく4事業に分けてまとめた。「1. 人と自然をつなぐ」「2. 次世代と自然をつなぐ」「3. 地域と自然をつなぐ」「4. 自然情報を未来へつなぐ」とし、それぞれに対して事業内容を細かく設定した。

「1. 人と自然をつなぐ」については、事業内容を、発見・気づき・体験から学ぶ機会作り、保全活動、情報発信とした。例えば、常設展示等でも来館者が発見・気づきができ、自分で取組めるような仕組みを取り入れたいと考えている。新規事業に、はまなすの丘公園ヴィジターセンター展示とある。事業計画に細かくは取り上げていなかったが、これまでも2階に展示できる区画があり、この展示を更新予定である。また、新たに、いしかり海辺の自然塾（仮称）を行う。自然案内人養成講座を中止した代わりに、形態を発展したものとして実施したいと考えている。また、普及員が毎月1回実施していた海辺の植物ウォッチングを中止する。理由は、これまでは時間を押さえて案内して

いたが、どの時間にきても普及員が観察園や再生園の案内をしたほうが、より柔軟に対応できるためである。

「2. 次世代と自然をつなぐ」については、引き続き、環境学習事業と子どもの学び支援を行う。

「3. 地域と自然をつなぐ」では、継続事業に加えて新規事業として地元塾（仮称）と題して、本町地区の住人との連携を繋げて拡大する一歩として次年度以降、取り組みたいと考えている。

「4. 自然情報を未来へつなぐ」では、研究機関、大学、団体などと科学的・客観的なデータの蓄積・整理を行っていききたい。

新規事業については、資料の（2）以降に詳細を載せている。保護センターのミッションである「石狩浜の海浜植物保護活動の拠点」を考えたいという事業形態としたので、ご意見をいただきたい。特に、次年度は、4事業のうち1および3の二つに大きく力を入れて活動を行いたいと考えている。

【松島】

ご意見よろしくお願い致します。

【安田】

ビジターセンターの展示（拡大）の具体的なイメージはあるか。また、展示物の作成等に人員は割けるのか。

【石山】

ビジターセンターに関しては、継続という意味合いで捉えていただきたい。具体的内容についてはこれからである。2階の展示物も色があせているものがある。もう少しセンターへの周遊ができたり、ビジターに来られた方に公園内の旬な情報を伝えられたりするような展示にしていききたいと考えている。

人員については、保護センターの常設展示についても同様であるが、11月にセンターを閉館している冬季の間に次年度準備を行っている。4月には新しい展示（保護センターの常設展示、ビジターセンター展示）ができるように準備を進めている。

【安田】

（ビジターセンター内の展示について）定期観察の会が1面ボードを使っているが、他のスペースを取り替えて、よりよい展示に変えていくということか。

【石山】

ビジターセンターの階段があって、右手に6面くらいあるので、全体の配置を考えてそこから考えたい。

【松島】

旬な情報としては、定期観察の会で取り組まれ、貼り出している。

【安田】

できれば、その展示を1階に移せたらと商工労働観光課には話している。現状は、ボードを貼らせてもらうスペースはいただいているので、次年度もそのスペースを利

用して情報発信していけると思う。うまく連携したい。

【田畑】

事業3の地域連携事業について。地域との連携に力を入れるということで、地元住人の本町地区の理解が大事だと思う。これまでの交流はどうであったか。

【石山】

2年前、受託を受けた最初の年に、ファンクラブ主催・保護センター共催で、地元の方2人を講師として招いてハマボウフウの食べ方について講座を行った。事業の受託をしてからの保護センター主催事業について、本町地区をターゲットに絞ったものは、はまなす再生プロジェクトを除くと特には実施していない。昨年度・今年度は、再生園の作業ボランティアで地元から数名の方が継続的に参加されているので、少しずつ裾野は広がっているのではと考えている。

【安田】

地元との連携で、本町を盛り上げていかなければと強く思っている。素材的には自然・歴史ともにある地域なので、いろいろな人が訪ねられる状態がつかれるようになればと思う。広く市民に参加できることを考えているか。前回の実施のときは小規模でやっていたが、テーマ的には花川地区の方々にも魅力的と思う。広報をして、広く市民が参加できることを考えているか。

【石山】

地元塾に関しては、《資料2》(2)③の内容に、ハマボウフウ・三平汁(仮)を載せているが、あまり広く広報することは予定していない。石狩海岸の自然情報を広く発信することに関しては、「1. 人と自然をつなぐ」の新規事業にあげている、いしかり海辺の自然塾で行うことを考えている。まずは、地元の本町地区の方への保護センターの認知を広めることをしていきたい。ハマボウフウを選んだのは、観察園との繋がりのこともあり、今後、地元のコーナーを設け、地元の方がどのような海浜植物の利用をしていたかを観察園でも伝えられたらと考えている。次年度に関しては、保護センターのボランティアの方に声をかけ、本町の方には回覧板で広報することを考えており、花川地区への広報は行わない予定である。ハマボウフウの採取についてはナーバスな部分もあるので、次年度の5月に関しては少人数で内容を濃く実施できればと思う。

【安田】

うまく運営する手ごたえを得られるようになれば、花川地区の方も参加できるようになればと今後に期待、希望する。

【石山】

次年度は本町地区の協力者を増やすところに力を入れていくことをメインに考えている。一般の方に伝えるというより、本町地区との連携を強めるところに力を入れていきたい。

【渋谷】

地元住民の方との交流について、運上屋に詰めていたときに、どの地域かまではわからないが本町地区の町内会が廃止になったと聞いた。どのようなかたちで接点を設けていくのか。

【石山】

いくつかの町内会が統合されたと聞いている。回覧は回ると思う。他には個人的な知り合いにピンポイントで輪を広めていこうと思う。

【山田】

5月から毎月1回ずつ実施する、いしかり海辺の自然塾について、講師は誰が行うのか。1年の自然のサイクルを案内する意味で毎月1回ということなのかと思うが、毎月1回がいいのか、あるいはシリーズでやるのがいいのか。

石狩海岸の保全活動について、親船地区が拡大になった。委託費を支払い業者に監視をしてもらっているのか。事業者に頼んでいるのであれば経費もかさんでいくので、予算立ての中で新たに加わったところがあるのであれば、市に要求して事業費を増やしてもらわないと、きついのではないかと思った。

観光との連携について、本町地区には歴史的施設が残っている。観光に来たときに、自然も組み入れた観光をどうするとよいか。市の商工労働観光課にも聞いたりして、どうしたら自然を組み入れた観光をツアーとしてできるのか。最近の新聞等で見ていると、石狩の観光業者と企画をして自然案内も入れてツアーを募って案内するなどもある。石狩の魅力も高まるのではと思う。保護センターのみの企画には限界がある。市と事業者とタイアップしていく工夫も必要ではと思う。

【石山】

いしかり海辺の自然塾について、毎月1回という回数は、かなりの負担が予想される。講師は普及員またはファンクラブにお願いする予定。業務的にも負担だが、今後の保護センターの普及啓発活動やボランティアの育成を考えたときに、次年度は力を入れるべきと判断したので、毎月1回開催し、できるだけ多くの方に石狩海岸に足を運ぶ機会にしてもらいたいと考えている。

観光との関連について、本町地区全体での事業協力体制や石狩市との連携については、海辺ファンクラブが受託事業を行っている関係で、石狩観光協会や商工労働観光課との繋がりができている。本事業内容には組み込まれていないが、自然観察等の協力体制は徐々にできている。石狩小学校も閉校になるので、環境学習に関しても今後、多くの子どもに石狩海岸の自然をどう伝えていくかは、多くのところと協力体制を組んで考えていきたい。本町地区を考える会や商工労働観光課で実施している勉強会に海辺ファンクラブが参加して情報共有することもしている。

【宮原】

海浜植物等保護地区の拡大部分の体制、予算組みの対応について、山田委員がおっしゃっていたとおり、今年度、平成30年5月1日を施行として規則を改正し、海浜植物等保護地区のうち親船地区を拡大した。具体的には、これまでの親船地区は海水

浴場から新港側に1km程を指定していたが、今回はさらに新港側に約1.2km、面積にして約15haを新たに海浜植物等保護地区に指定している。今年度は、拡大部分に関して、看板を4箇所立て周知している。さらに、浜側に車両進入防止柵1.2km分を設置している。また、監視業務については、4月から10月まで親船地区・弁天地区等を含めて監視員2人で毎日監視業務をしていただいております、5月からの拡大地区についても実施している。看板と柵の設置は今年度で終了しているが、次年度以降も、監視業務や柵の補修業務の委託についても、拡大地区を含めて対応していく。

【山田】

保護センターの事業委託とは別にやっているということか。

【宮原】

そのとおり、別に実施している。

【伊井】

質問は2点。1点目、いしかり海辺の自然塾について。ボランティア育成とあるが、最終目標としては非常に重要であると思うが、少しステップを踏んでいくのはどうか。最近では、地方の観光や地方自治体の活性化について、関係者人口を増やしていくことがよく言われている。最初にボランティアをとなると敷居が高くなってしまふかもしれない。まずは保護センターに関心を持ってもらう人を増やしていくなど、段階を踏んだスケジュールも必要になってくるのではないか。

2点目、平成31年度は事業1と事業3を重点にされるということであるが、この2つについては具体的に目標があったほうが、年度末に事業評価をしやすいのではないか。先ほど平成30年度の事業報告のときに、山田委員から来館者数にそこまでこだわる必要はないけれども、ということをおっしゃっていただいた。ただ、来館数はインパクトがあり指標として出てくるので、運営委員会の中でもある程度は重視せざるを得ない。来館者数が事業評価のすべてではないことは共有したうえで、事業1と事業3で数値的なものがあるのであれば、数値的な目標、質的な目標を含めて運営事業として設定されたらよいと思う。

【石山】

いしかり海辺の自然塾に関しては、一般の方にも広げる予定ではいたが、主体をボランティア育成のほうに考えていたので、その部分をもう一度考慮したいと思う。

【伊井】

最初からボランティア育成に目的の焦点を絞っていたということであれば、それはそれで目標としてはよいと思う。

【石山】

既存のボランティア育成と新しい方の受け皿の両方を考えていたので、もう少し検討してみたいと思う。具体的な目標の設定についても、何らかの指標ないし数字で評価できるよう次年度開始までにもう一度考え直したい。

【松島】

いしかり海辺の自然塾のターゲットとしては、ボランティアに参加している人と新しく興味を持つ方を増やしたいというイメージか。

【石山】

講師の都合もあり、平日開催を予定していた。主に対象としてはシニアの退職された方をイメージしていた。別途、来年度に海辺ファンクラブ主催で土日に3回の大きな観察会を行うので、これらとも関連付けて石狩浜に足を運ぶ方が増えるような動機付けができればと思う。

【松島】

ボランティア育成をいしかり海辺の自然塾ではメインにし、関係者人口についてはその他のイベント等に対応していきたいというイメージか。

【石山】

関係者で土日しか動けない方に関しては、ファンクラブ主催事業でターゲットにし、いしかり海辺の自然塾では平日多少時間のある新規関係者をターゲットとして考えている。

【田畑】

親船地区（海浜植物等保護地区）の補修費と運営費が分かれているとのことだが、これだけ活動するなかで、運営費が厳しいとの話があった。運営（受託）費は据え置きになっているのか。新年度予算は、財政の問題もかかってくるが状況についてはどうか。

【宮原】

平成31年度の予算編成を進めているところで、まだ確定していないのはっきりとは申し上げられないが、これまでの状況では2年前に業務委託しているところから委託費等は変わっていない。平成30年度は委託費が420万円、その他活動の事業経費として交付金150万円を海辺ファンクラブに交付している。前回の運営委員会で山田委員から2人ではきついので、市のほうでもっと考えるべきではないかとのご意見等もあり、実際に海辺ファンクラブにも大変厳しいところを運営していただいている。次年度（平成31年度）については、現時点の要求で420万円を442万円くらいで要求しており、確保できる状況と考えている。交付金150万円は変わらない。内容を整理して環境教育など市が持てる部分は持てるように枠組みを変更し、わずかではあるが多少増えた中でこれまで以上に業務委託していただけることを期待している。

【松島】

保護センターの中での収益事業に関してはいかがか。

【宮原】

市への収入はない形の事業の枠組みになっている。海辺ファンクラブ事業で行っているものは海辺ファンクラブに入っており、市の歳入に入っているものはない。

【松島】

保護センターの中で、受託の一環で収益事業の一部があっても問題ないか。

【宮原】

基本的に市の委託業務である保護センター事業の中で、材料費などの実費をいただく部分については問題ないと考えている。

【安田】

資料2の3頁に、「4. 自然情報を未来へつなぐ」があげられており、「過去の調査データ、市民活動データの情報の整理を行う。」となっている。過去の調査データに関し、聞いた話で、保護センターができる前後の頃に、与那覇さんなどの市民の方が調査をしたときのデータを保護センターに寄贈したと聞いている。それらはどうなっているのか気になっている。そのような調査データを整理されるのか。市民活動データの情報の整理とはどのようなことを考えているか。

【石山】

どのようなデータになるか具体的なことは、まだはっきり言えない。情報が錯綜していて来館者へも伝えにくいし普及員も情報整理が必要である。松島先生や環境保全課を含めて調査の情報の整理自体をどうするかをまずは話し合い、細かい整理の方法、そして展示にどう活かすかを話し合っていくことになる。関係者や専門家との全体的な整理から行うべきと考えている。環境保全課や松島先生にお願いして場を設けてもらいたい。

【安田】

関連して、2008年から定期観察の会で、かつて保護センターが実施していた定期観察を市民で引き継いで今も行っている。はまなすの丘公園を2週間隔でデータを取っている。貴重なデータを取っているので、保護センターが石狩の自然に関する情報を収集するならば保管していただけたらという話が内部では出ている。与那覇さんが預けているという話もあるので、20年前の貴重な植生調査のデータがあると思う。それらの保管をして、見たい人がいたら見られるようにできるように。保護センターの機能にも関わってくる。石狩海岸の自然情報を保管できたらいいなと思う。

【松島】

データを整理して必要なときに出せるような状態にする労力はかなりのもの。海辺ファンクラブでできるか懸念がある。

【安田】

もしかしたら図書館や資料館との連携もあったうえで、石狩市の貴重な財産なので、考えていかなければならないのかなと思う。

【松島】

生データ自体は保管できると思うが、そこからどういう傾向があるか読み取るのは専門家の力が必要である。データを入力するだけでも、解析するためのデジタル化に労力がかかる。海辺ファンクラブの今の状況をみても厳しいと思うので、環境保全課で新たに植生解析事業など委託費をとっていただいて、アルバイトにデータ入力を代行してもらおうなど。データはたくさんあるが、使える形にするのは労力がかかってく

るので、話し合いが必要と感じている。

【安田】

デジタル化しなくても、そのものをまずはどういう資料なのか分かるようにすることを最低限できるように。与那覇さんが預けた資料があるということを知っているの
で、具体的にどういう資料かが分かるようにリスト化し、保管してほしい。

【松島】

どこで取ったデータなのかを付き合わせていかないと分類ができない。与那覇さんが預けたというのは、その当時、石狩市に渡したものであろう。今、それを海辺ファンクラブが代行するのは、マンパワー的には厳しい。役割分担と作業ができるか一度話し合わなければならない。

【安田】

海辺ファンクラブが委託を受けて実施する事業が資料にあげられているが、保護センター自体が市の施設として動いており、20周年を迎える段階まで来ている。保護センターの役割として、石狩海岸の自然状況を把握しつつ、守っていく役割があるかと思う。海岸の自然の状況が経時的にどのように変わっているかのモニタリングはされていない。自然がどのように変わっているかがわからずに保護保全ができるのだろうかと思う。2016年に元北海学園大学の佐藤謙先生が石狩海岸の約25km、砂丘草原からカシワ林まで、260地点の植生調査をしている。最も貴重な場所は、風車建設が始まった銭函海岸のところで、草原の植生も残り大事であると言っていた。しかし、きちんと自然を把握していくことがされていない。大事な場所がどこなのか、植物相の変化を追っていく。専門家の視点が必要となると思うが、どういうことをやっていけばあまり労力をかけないで自然の状況を把握できるか、調査の場所と方法、調査の間合いを考えてやっていかなければならない。

また、広い視野で石狩海岸の自然を守ることを考えると、外来種のアズマキヒガエルについて、保護センターの仕事にはならないと思うが、環境保全課として考えていかないと、生態系がみだれていく可能性もあるのではないか。

さらに、20周年事業はどのように位置されていくのか。

【松島】

植生の状態を把握することに関して、石狩市で作成した植生図は、2008年くらいのものであったかと思う。大分前になり、定期的なモニタリングはできていない。環境保全課ではいかがか。

【宮原】

今年度、浜益区の自然環境調査業務委託を実施しており、松島先生にも検討委員としてご協力いただいている。市域全体の自然状況把握として生物多様性の保全のための基礎調査の集約や、自然環境の調査結果を活用した地域振興等も目的にして、今年度は浜益で1,150万円の予算で自然環境調査を実施している。所管としてはもともと石狩市域全体で予算要求したところであった。来年度も引き続き、厚田・石狩含めて

実施したいということで予算要求していたところで、まだ確定ではないが、厚田を中心に環境調査ができる見込みである。環境調査の必要性は感じていて、引き続き予算要求していくつもりである。海岸部を含めた旧石狩市域については、早くて再来年度になる。繰り返しになるが、自然環境の把握については所管として重くみており、引き続き予算要求等していきたいと考えている。これまで、先ほどの与那覇さんなど、いろいろな方々の調査があったが、専門家をお願いした大きな調査は今回初めてであると思う。きちんと把握して、どう継続していくか。隔年になるのか毎年になるのか、大規模な実施は難しいと思うので、市民参加型で調査して更新できるのかも含め、今後検討していかなくてはならない。

【松島】

調査で定期的に見ていく必要があり、5年間隔ぐらいで実施できるといいかと思う。長くて10年に1回は行われるように。大きな調査を実施しておく、細かいところは部分的に実施していくことも可能だと思う。

【宮原】

外来種は2年ほど前から酪農学園大学のご協力等もいただいて、石狩斎場の真裏側にある通称名無沼がアズマヒキガエルの繁殖場所になっているということで、効果的な捕獲方法の検証と実際の駆除で対応してきているところである。アズマヒキガエルは北海道の指定外来種になっており、石狩川流域の市町村で確認されている状況で、広域的な対応の部分では北海道でも動いているところもあるので、連携しながら進めていかなければならないと考えている。来年度もいくらかの予算を付ける中で、引き続き対応していきたい。

【伊井】

予算規模について質問させていただきたい。先ほど、保護センター運営委託については委託費が約440万円と交付金150万円、自然調査については1,000万円程の予算計上とのことであった。それを比較すると、そもそも保護センター事業をそこまで求める規模として市は考えられていらっしゃるということか。その規模でこれだけ広範なものをされるというのは予算規模が合っていないのではないかと、少しアンバランスではないかと率直に思うが。

【宮原】

石狩浜海浜植物保護センター運営事業費という大きな事業費の中の枠があり、その中の予算規模では次年度要求額として1,025万3,000円となっている。

【伊井】

全体としてはあるのですね。

【宮原】

そのうち業務委託費として海辺ファンクラブへお支払いするのが委託費約440万円、活動経費として150万円となっている。その他、保護地区監視員の報酬や費用弁償、保護センターの光熱水費、保護地区に関する委託費で、概ね1,000万円となって

いる。なかなか厳しい状況ではある。

【伊井】

現状でも決して安くない額であることは理解しているつもりである。他の事業とも対比というところでは、先ほど20万円程を上乗せするので効果をという話もあったので、率直に言って厳しいのではないかと思う。

【宮原】

先ほど伊井委員が言われたとおり、指標として入館者数などがその一つとなるが、それが業務委託の成果の全てとは考えていない。期待はさせてはいただいているが、予算を少し増やしたからといって入館者を1割2割上げると言うつもりはない。

【松島】

海辺ファンクラブの中でも、どれが出来てどれが継続困難であるか仕分けを始めていて、予算の中でしっかり線引きをしていく。ボランティアワークでやられている部分も大きい。関係者人口を増やしていくと言いつつ、一番興味のある海辺ファンクラブの方々が嫌だということにならないように、問題点や課題を出して話し合っていく必要がある。

【安田】

20周年については何か具体的なイメージはあるか。

【宮原】

20周年は、再来年度、平成32年4月をもって20年となる。平成31年の予算編成に間に合うように内容を決定し、具体的には今後検討していくかたちになる。現段階ではお話できる内容はないのでご理解いただきたい。

議題（3） その他

【事務局】

— 《資料3》「平成29年度石狩浜海浜植物保護センター活動報告」（修正部分説明） —

【松島】

修正案について意見等があればお願いしたい。

【安田】

8・9・10頁の学習支援について、表1-3と表1-4で学年・人数の違うところがある。10月2日は石狩小学校2年生ではなくて5年生。9月8日の石狩中学校の人数が異なっている。7月6・12日の2回実施している南線小学校の人数の合計が合わない。表1-3の中で、7月14日、7月27日、8月17日の実施分の扱いは出前講座にならないのか。10頁、ブース出展が3つ掲載されているが、主催が全部同じではなかったかもしれない。情報提供したこちらで正確なところを調べさせていただく。

【木本】

再度確認のうえ正しいものを載せさせていただく。

【安田】

6頁に追加いただいた定期観察の会の活動の扱いについて。共催とあるが、保護センターとの共催で観察会をという認識はなかった。ここに載せないほうがよいのではないか。

【木本】

市で作成している本活動報告資料については、海辺ファンクラブが取りまとめている事業報告資料とは異なり、ボランティア支援枠についてはこれまで記載がなかった。内部でどこに載せるのが適切か検討した結果、自然観察という観点から、こちらの欄に載せさせていただいた。

【宮原】

そのあたりは相談させてください。

【安田】

追加で、7頁、海辺のクラフト教室では、指導のところで普及員となっているが、平成29年度の実施では土日の応援で回数は少ないが自然案内人も入ってもらっていたので、入れておいていただけたらと思う。

【松島】

全体を通して、何かご質問があれば承りたいと思う。《資料1-2》、《資料1-3》について説明はなかったが、報告があがっているのでお目通しいただきたい。

石狩小学校が統廃合される。今まで保護センターを利用いただいたりしていたが、今後小学生への働きかけは出前講座だけになるのか。

【安田】

校長先生にお聞きしたところ、地元の自然を守れる大事な活動と思っているので、統合になってもできるだけ石狩浜での学習ができるようには働きかけてみたいとおっしゃっていた。どうなるかはわからないが、良さは認めてくださっていたと理解している。

【松島】

近隣の小中学校が積極的に関わってくれるとよいので、海辺ファンクラブ、市からもバックアップできればご協力いただければと思う。

【山田】

観光との関連で保護センターを活用していくのはどうかということを先に話をした。特定非営利活動法人いしかり海辺ファンクラブの「特定非営利」が引っかけり、旅行者にツアーを組み入れた場合に謝金がきたらまずいなどの制限はあるのか。

【石山】

特定非営利団体という法人格は付いているが、利益を上げてはいけないという規制ではなく、得た利益を役員に分配してはいけないというような規制なので、利益自体は得て大丈夫である。

【山田】

ツアーを旅行会社の中に組み入れてくださいと手をあげて働きかけをすることは可能なのか。

【石山】

可能である。今年度に関しても石狩市で活動されている旅行会社と海辺ファンクラブとしては何度か一緒にツアーをさせていただいた。一番問題になるのは人手の問題である。収益事業を増やしたい気持ちはあるが、ツアーのプログラムの組めるスキルをもつ人材は限られており業務が集中してしまう。人材の幅広い確保ということで来年度以降は毎月1回のプログラムを組み合わせて人が増えるような仕組みにしたい。

【松島】

観光に関しては、タクシー運転手が保護センターを訪れて勉強したという話があった。観光タクシーでの案内もあるようだが、海辺ファンクラブの収益につながっていないのは残念ではある。

【山田】

石狩浜は日本全体の中でも貴重な自然なので、そういう認識があり興味のある人は来るのではと思う。

【安田】

植生調査のことや外来種のことがあり、保護センター全体がどういう機能を果たしていくのか。石狩市における生物多様性の保全に関わってくると思う。その視点で、保護センターの位置づけを考えていかななくてはならないと思っているということをお伝えしておく。

【宮原】

環境保全課と保護センターの役割分担を明確にしがたい部分もあるかと思う。おっしゃっているのは、今後5・10年後の中長期的に見た保護センターとしてのビジョンなどを含め、どのような役割を担い活動していくのかということではないかと承知している。20周年を迎えるにあたり、これまでの活動を振り返りつつ、今後どうしていくとよいかは、皆様のご意見賜りながら考えていきたい。

【松島】

《資料3》の平成29年度活動報告の1頁にある役割分担（図1）で、運営委託者は、「日常業務（来館者対応、自然観察園の整備、掲示物の作成など）」「業務実務報告」となっている。「共同」の部分に示されている「自然情報の共有」「他団体との連携」「イベント運営」の役割分担や割合の話を今後は詰めていかないのではないかなど感じている。

3. 閉会

【事務局】

貴重なご意見を賜りありがとうございます。長時間にわたりご審議いただき大変お

疲れ様でした。いただいたご意見等を踏まえながら、また今後の施策に活かしていきたいと考えておりますので、引き続き宜しくお願い致します。

第2回石狩海浜植物保護センター運営委員会を終了いたします。ありがとうございました。

議事録を確認しました。

平成31年2月13日

石狩海浜植物保護センター

運営委員会会長 松島 肇